

佳作

思い出は宝物

広島県 東広島市立高屋西小学校六年 三井 咲良

「タカタカタツカタ。」

スネアドラムの音が、グラウンドいっぱいにびびきわたります。今日は、転校を目の前にしてむかえた運動会です。この運動会はわたしにとって、特別なものです。六月一日に転校することになって、今通っている小学校の友達と過ごせるのも残り少ない中でむかえた運動会。その花形は何ととっても伝統のマーチングです。行進をしながら、いろいろな楽器で演奏をします。

練習のスタートは五年生の冬です。わたしは、いままでずっとあこがれていたスネアドラムのオーディションを受けました。オーディションまでは六年生の先ばい方に教えていただき、毎日練習に通いました。オーディション前日は心配でなかなかねむれませんでした。そして、努力して練習した結果もあ

ってオーディションに合格することができました。「やったあ」思わずそんな声を出してしまいましたが、合格発表から数日……。本格的な練習が始まりました。どうしたら同じ楽器の人と音を合わせることができるのか、指揮者の動きをとらえることができるのか、など不安なことだらけでくじけそうになることもありましたが、でも、不思議と練習がいやだと思える仲間がいたからだと思います。アドバイスしたりはげまし合ったりしながら、仲間とのつながりが強くなっていくのを感じました。

六年生。運動会が近づき、運動場での練習が増えました。このころになると全体の音のバランスはどうか、隊形移動はそろっているかなどの細かいところまで少しずつ直していきました。音楽の先生からのアドバイスはいつも

「指揮者を見て、自分の音に自信を持って。」意識はするもののなかなか行動に移せません。指揮棒とバチの動きが合わないのです。

そして、運動会前日。いっしょに練習してきた仲間達と、

「指揮者を見て、ぜったいに成功させよう。」
と約束しました。

運動会当日。マーチングはプログラムの一番最後です。勢いよく行進を始め、一曲目までいっきに進みました。二曲目、三曲目、そして退場…。音も指揮者とびったりでどんだん自信がわいてきました。今までで一番いいものを演奏することができました。退場した後もなんだか演奏したときの興ふんが体に残っていて、みんなと

「成功したね。」

「よかったね。」

と喜び合いました。

この運動会の思い出は他の学校に転校してからも一生心に残り続けるわたしの宝物です。